

京都府立医科大学の「今と未来」を伝える広報誌

The KPUM TIMES

COMMUNICATION MAGAZINE

Renewed

vol. 02
March 2025

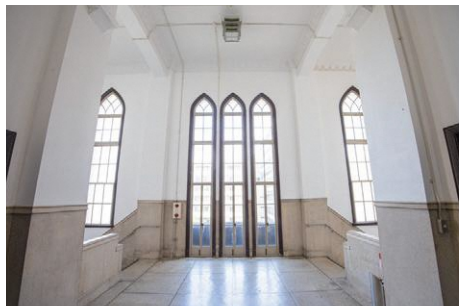
新たなあゆみ
～学生の未来の活躍～

特集1 | 学部生の活躍

特集2 | 広小路キャンパス活性化プロジェクト



京都府公立大学法人
京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE



大学本部棟 3階

縦長窓の上部は特徴的なポインテッド・アーチとなっており、ドイツ表現主義のネオ・ゴシックの意匠が現代に受け継がれています。

CONTENTS

03 副学長、看護学科長紹介

浮村 理 副学長
橋本 直哉 副学長
的場 聖明 副学長
八木田 和弘 副学長
吉岡 さおり 看護学科長

05 特集1 学部生の活躍

- ・トリアス祭を開催しました!
- ・トリアス祭実行委員×学生部長、看護学科長との座談会
- ・白衣授与式

08 特集2 広小路キャンパス活性化プロジェクト 「ラーニングコモンズ」完成間近!

10 Topic 1 看護学科

11 Topic 2 国際

12 Topic 3 研究

13 Topic 4 地域

14 教授紹介

麻酔科学 天谷 文昌 教授
分子生化学 中田 慎一郎 教授
消化器外科学 塩崎 敦 教授

15 京都モダン建築祭2024

本部棟を公開しました

16 大学、附属病院からのお知らせ

Introduction of the Vice President and Head of Nursing Department

副学長、看護学科長紹介

2023年4月に夜久均学長が就任し、新しい副学長・看護学科長を迎えました。
副学長・看護学科長からのメッセージを紹介します。



浮村 理 副学長 総務担当〈働き方改革・情報関係〉
総合情報センター長 泌尿器外科学 教授

大学がその理念を実現すべく成長戦略の坂の上の雲を目指し、本学学生が明るい未来を創造すべく個々の夢に向かって躍動できるように、微力ながら尽力したいと思います。

夜久学長肝いりのK-MICSおよびSDGsに関する広報活動としてのHome pageを開設、本学若手スタッフはもちろん、学生のアイデアや夢も含め、本学に潜在する研究開発シーズを社会実装へと導くための体制の支援を進めています。加えて、京都府立医科大学創立150周年の記念映画である「幕末ヒポクラテスたち」(本学出身の大森一樹映画監督の代表作(1980年公開)である本学の医学生青春像を描く「ヒポクラテスたち」の第2作として)の企画・製作を進めています。2024年12月現在、京都出身の佐々木蔵之介氏を主役、故大森氏の助監督を務めた経験から緒方明監督を迎えて、東映撮影所など京都府内で撮影が開始されています。幕末から明治初期、本学が青蓮院に療病院として創立された黎明期に、本学初代医師「元祖ヒポクラテス」が当時のパンデミックを乗り越え、現代の府立病院にその志・人間愛を受け継ぐ姿を、本学の輝かしい伝統に誇りを抱き、映像化します。



橋本 直哉 副学長 教育担当〈入試改革・大学認証〉
脳神経機能再生外科学 教授

副学長として教育を担当しています。医学科・看護学科では分野別・機関別評価などの認証過程や、医学モデルコアカリキュラムと大学設置基準の改訂等を通じ、学生部長・教育センター長・看護学科長とともに医学部教育の改革に取り組んでいます。日本の医学教育の標準水準を超えるだけでなく、京都府立医科大学の建学理念である「世界トップレベルの医学を地域へ」を実現できるべく、医学部学生を育むことが使命であると認識しています。入試選抜に始まり、教育プログラムとその評価、学生と評価、教員、教育資源など、改革は多岐に渡りますが、本学学生の未来における多様な活躍を目の当たりにする日を想像しつつ、これからも全力で取り組みたいと思います。附属病院はもとより、図書館、国際学術交流センター、保健管理センター、入試室、教育支援課等の多大な協力を得て、改革は順調に進んでいると感じていますが、透明性を保った改革が重要です。見えない点がございましたらどうぞ忌憚なくご指導ください。学生さんを含めた本学構成員のみなさまの改革へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

副学長、看護学科長紹介 Introduction of the Vice President and Head of Nursing Department



的場 聖明

副学長 地域医療担当〈大学整備・地域医療〉

循環器内科学 教授

副学長(大学整備・地域医療担当)を拝命した循環器内科学的的場聖明です。

本学の理念「世界トップレベルの医学を地域へ」の継承と発展に向けて、大学整備の第一歩は、新病棟建築による病院機能のさらなる充実(高度医療・急性期・感染症対応)と、地域ネットワークの拡充です。そして、これまで以上に信頼される大学と病院となることを目指しています。

具体的には、救命救急センターの救急診療と高度専門医療のスムーズな連携により24時間365日教職員が一丸となって診療体制を進めるなか、「洛中アライアンス」として発足した近隣の病院との連携により患者さん第一の最善の医療と医学を提供するというミッションの達成に向け、多職種のメンバーで行動しています。そのために他大学や企業・行政からのご意見を聞き、時には共同研究を通じて、次の150年の基礎となるシステムづくりを大学教職員で取り組んでいます。この中で、資材高騰や土地不足、エネルギー価格上昇は課題ではあるものの、最も重要なことは、その中身の充実、すなわち、優秀な人材の教育と確保と考えています。より「魅力のある大学づくり」が不可欠と考えています。多くの方のご意見を聞いて、よりよい大学と病院を目指しています。是非とも皆様のご協力を宜しく願います。



八木田 和弘

副学長 研究担当〈未来人材育成〉

統合生理学 教授

前号では、産学公連携機構 K-MICSおよび北部キャンパス地域大学院コースの新設が紹介されました。ここでは、これらの取り組みの背景にある、研究・未来人材育成の思いを述べさせていただきます。

創立以来、本学において独創的かつ世界をリードする研究を生み出し、国内外の大学や研究機関で指導者として活躍する人材を多く輩出してきました。また、本学で研鑽を積み、国内外の病院で世界レベルの活躍をしながら後進を育成している医師も多く巣立っています。さらに、地域においてモデルとなる医療のあり方を模索し、地域社会のリーダーとして住民から絶大な信頼を得ているカリスマもまた、本学で育った医師であります。その傍らには、その姿に憧れ学ぶ若い医師たちが集い育っています。このような「人づくり」こそが、現存する日本最古の公立大学として、「地域への責任」と「世界レベルの医学」の間で揺れつつもバランスをとりながら発展してきた、本学の価値そのものであります。

本学の学生(学部生・大学院生)の皆さんには、京都府内はもとより、全国で、そして世界で活躍する未来が待っています。そして、そこには、志を同じくする若者たちの中心で輝く、指導者となったあなたの姿があります。そんな姿こそ、本学で学び研鑽する皆さんの未来であり、京都府立医科大学が目指している「育成すべき未来人材像」です。



吉岡 さおり

看護学科長

成人看護学・がん看護学領域 教授

本学看護学科は我が国における近代看護学教育の黎明期、明治22年(1889年)に開設された京都府医学校附属産婆教習所を淵源とし、130年を超える長い歴史と共にあります。平成14年には医学部看護学科となり、京都で初めての学士課程による看護基礎教育が始まりました。温故知新ということばがあるように、先人のあゆみに学びながら、新しいことにチャレンジすることを恐れず、現代・未来の看護職が人びとの生老病死に寄り添い、生活や人生を支えるためのケアを探究する教育を大切にしています。

また、平成19年には保健看護学研究科修士課程が設置され、研究力を修得する大学院教育が始まりました。平成23年にはがん看護専門看護師コースの開設、令和6年には精神看護専門看護師コースも加わり、高度実践看護師教育も充実しています。さらには、平成30年に博士後期課程が設置され、看護学の向上に資する教育・研究者の養成と学術的研究も発展してきました。

本学は、看護基礎教育から博士後期課程まで、一人ひとりの看護職のキャリアデザイン・サポートができる大学です。豊かな人間性に基づくケアリングマインドを大切にしながら、地域包括ケア時代のあらゆる場でリーダーシップを発揮できる専門性の高い人材を社会に送り出していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



ダンスステージ

左上：模擬店の様子
左中：トリアス祭実行委員
左下：工作ワークショップ
右：フースーヤさん、おいでやす小田さんライブ
集合撮影

トリアス祭の意義・原点に立ち返って ～2024年度の振り返り～

2024年度トリアス祭実行委員長 北川 凜太郎

トリアス祭は大学の魅力を発信するだけでなく、学部生の創り上げるさまざまな企画や模擬店を楽しんでいただく場として重要な意味を持ちます。実行委員長としての最初の仕事は、今年度の学園祭のテーマ・目玉を考えることでした。実行委員会を中心に、本学学生の意見なども拝聴し、今年のトリアス祭はゲストを呼ぶなど、よりポップで、皆で楽しめる学園祭にしようと決め、このカラーに合うテーマとして、“昨年度のR151NG(新興)からさらに歩みを進める”という期待が込められた「CRO152ANCE(croissance)」(仏：成長)を選びました。

2024年度トリアス祭では、より幅広い年代層に楽しんでいただくことを目的に、昨年度よりも企画の数を大幅に増やしました。大きな目玉企画として、9年ぶりに吉本お笑いライブを開催し、おいでやす小田さんとフースー

ヤさんにお越しいただきました。気づけば会場には数百人の観客がおり会場では大きな笑い声に包まれていました。ステージでは、他にもダンスや京府医Youtuber企画など実行委員以外の本学学生が主体の企画も催行しました。音楽に合わせて手を叩いていただくなど、大きな盛り上がりを見せることができました。また、今年は縁日企画や工作ワークショップ、5年ぶりの開催となりました「広小路音楽の夕べ」など子どもから大人まで楽しめる企画を広小路キャンパスにて実施しました。いずれの企画も多くの方からまたやりたい、またやってほしいなど温かいお言葉をいただくことができました。

また、卒業生や学生、教職員が一堂に触れ合えるホームカミングデーも2年ぶりに開催しました。多様なキャリアを持つ先生をお呼びし、本学にお

ける学生時代の過ごし方、進路決定、今後の展望など色々なテーマでお話しいただき、講演会終了後には立食パーティーを行いました。学生たちから様々な質問や相談が挙がり、先生方と学生の交流の場になることができたと考えております。

コロナ禍が終わり新しい学園祭の形を探る中でのトリアス祭でしたが、実行委員会メンバーや学生、教職員、校友会の方々のご協力もあり、大学の魅力・雰囲気だけでなく、本学学生の多方面での活躍を感じていただけたと自負しております。次年度以降においても、企画の幅をさらに広げ、医科大学にしかできない学園祭カラーを創り上げて欲しいと心より願っております。



左：ボリスみやこちゃん
中：医学へのとびら展
右：縁日企画



学部生の活躍／座談会

トリアス祭を振り返って

～ 誰もが楽しく参加できる学園祭へ ～

「CROISSANCE」(仏:成長)をテーマに開催された第152回トリアス祭。学部生が主体となって企画・運営することの大変さとやりがい、そこから得られたことや学びを今後はどう生かしていくのか…。実行委員会のメンバーが学生部長、看護学科長とともに、トリアス祭を振り返ります。

参加者 2024トリアス祭実行委員会

- ・北川 凜太郎 (医学科4年生／委員長)
- ・今田 倫太郎 (医学科3年生)
- ・河野 円香 (看護学科2年生／副委員長)

学生部長 分子標的予防医学 教授 武藤 倫弘

看護学科長 成人看護学・がん看護学領域 教授 吉岡 さおり

医科大学らしさとともに開かれた学園祭に

武藤 今年度のトリアス祭も無事に終了しましたが、実行委員会として満足できるものになりましたか？

北川 今年度のトリアス祭は、より幅広い層のいろいろな人たちに楽しんでいただくことが、大きな目的のひとつでした。昨年度よりも企画の数を大幅に増やし、新しい取り組みにもチャレンジ。おいでやす小田さんとフースーヤさんにご出演いただいて9年ぶりに開催した吉本お笑いライブは、集客の大きな目玉になりました。

河野 広小路キャンパスでは縁日企画やワークショップなどのほか、5年ぶりに「広小路音楽の夕べ」も実施しました。子どもから大人まで、また医学・医療に関心の少ない人たちも楽しめる企画が揃ったと思います。ただ、医学科との共同企画がほとんどだったので、看護学科独自の企画が必要かなというのは次年度以降への課題ですね。

今田 広報や情報発信という点では、これまでの公式サイトやX(旧Twitter)に加えて、今年はInstagramも開設しました。SNS活用による情報発信を強化したことで、天候急変によるプログラムの変更などリアルタイムで情報を知らせることができたのは収穫です。IT関連担当としては、複数人でホーム

ページのコーディング作業を行う開発基盤を上手く構築できたので、これは次年度にも引き継げるのではないかと自負しています。

吉岡 今年はホームカミングデーも開催されました。

北川 はい。2年ぶりの開催です。本学卒業生や在学生、教職員が一同に触れあえるイベントとして、多様なキャリアを持つ先生方をお招きし、学生時代の過ごし方、進路決定、今後の展望などさまざまなテーマでお話しいただきました。講演会終了後には立食パーティーも行い、学生たちから多くの“芯”のある質問が挙がり、先生方には真摯にお答えいただきました。学生がキャリアプランを考える上で先輩の声というのはすごく大事だと実感し、非常に有意義な時間になったと思います。

武藤 外へ向けての開かれたキャンパス、内に向けての同窓会的な役割。学園祭に求められる両方の機能をしっかりと果たすことができたようですね。



北川 凜太郎さん

危機への対処、組織運営の実務 さまざまな経験を今後の糧に

吉岡 トリアス祭では初日に大雨が降りました。対応が大変だったのではないですか？

北川 天気予報や雨雲の動きをにらみながら実施していましたが、大雨洪水警報が発出され、屋外でのイベントは中止せざるを得ませんでした。1日目は屋内企画だけで乗り切ることになり、タイムテーブルを組み直したり、関係各所との連絡、調整、スタッフへの指示など本当に大変でした。でも、無事故で安全が第一ですから。

武藤 もともと雨の予報だったこともあり、事前の準備もできていたようです。適切な危機管理対応には、「プランB」を用意して複数の方向から対応することは必須です。しかし大変だったり苦労したりした経験は、今後に必ず生きてきます。

河野 何かトリアス祭に関わりたいと思って実行委員に手を挙げました。人員や資金集め、雑多な事務作業などさまざまにある実行委員の仕事の中で、最も大変さを痛感したのは、新しい何かを一から作り上げること。難しいけれど、だからこそ面白さと達成感を感じました。私が目指している保健師の仕事は、まさしく一から作っていくことばかりです。主体的に考え行動した経験は、未来の私に役立つものと思っています。

今田 実行委員として経験できた一番大きなことは、他の人と協調するというか、同調して働いたことです。ほかのメンバーと一緒に、同じ現場で同じコードを触って新しいものを作るという、それは初めての経験でした。

吉岡 プロセスをみんなで共有したということが大切で、対話を重ね、その結果としてみんなでとてもよい時間を共有できたのではないのでしょうか。それは学生時代の思い出としてはもちろん、医療従事者を目指すみなさんにはこの上ない財産になると思います。医療従事者に求められるのは豊かな人間性、多様な考え方ができる人間力、その上で知識や技術を持つことが大切です。トリアス祭の企画・運営を通して得た仲間と豊かな経験は、チーム医療に直結して役に立つものと思います。

武藤 相手を尊重し、対話を通じて、プロセスそのものを引き上げていく。さらにマネジメント力やアクシデント対応……。学生ではなかなかできない組織運営の実践的な経験とそこから得た学び、大きな財産を今後の学生生活に生かし、未来の医療を担っていきましょう。



左から河野 円香さん、今田 倫太郎さん

白衣授与式

令和6年11月25日に夜久学長、学友会 河田会長を始めとする先生方にご参列いただき、白衣授与式を実施いたしました。

白衣授与式は、医学科同窓会組織である学友会から寄贈された医師の象徴である白衣を授ける記念行事として、共用試験(OSCE・CBT)に合格し、臨床実習に臨むことを許された医学科4年生の学生を対象に平成27年度より実施しています。

ご出席の先生方、河田会長に白衣を着せていただいた学生からは、「臨床実習を迎えるにあたり気の引き締まる思い」、「感謝の気持ちを忘れることなく、これから臨床の現場へと進んでまいります」とのお礼と決意の言葉が述べられました。

白衣を授与された学生は、12月2日から始まった本学附属病院内での臨床実習に参加しており、医療人として必要な手技や知識を身に付けてまいりますので、皆様のご支援をお願いします。





クラウドファンディングに挑戦中！

｜特集2｜ 広小路キャンパス活性化プロジェクト

「ラーニングコモンズ」完成間近！

●広小路キャンパスのいま

京都府立医科大学には、高等教育と学術研究活動を支える重要な「附属図書館」と看護学生の学ぶ「看護学学舎」を有する「広小路キャンパス」があります。令和5年7月にスタートした「広小路キャンパス活性化プロジェクト」は、図書館の貴重な資源を有効活用し、学生が学びやすい環境を整え、地域に開かれた附属図書館のあるキャンパスを目指しています。

附属図書館は、医学情報を提供し、書籍を保管する知の蔵の役割を果たしています。さらには、友人や先輩後輩、また、地域の医療従事者や地域の方々と交流をし、語り合う中で、夢を実現させるための貴重な場所でもあります。優秀な人材を育成するためには、附属図書館の担う役割は大変重要だと自負しています。

私たちプロジェクトは、今年4月、勉学に励む学生等がグループミー

ティングを通して課題を解決できる、教育研究施設「ラーニングコモンズ」を整備します。大学関係者のみならず、地域に開かれた附属図書館を目指して、学会、研究会等と連携するとともに、地域との交流の場として位置付けてまいります。

●附属図書館内に「ラーニングコモンズ」を新設

学生の主体的な学習を支援したり、研究者がグループ討議等ができる場として「ラーニングコモンズ」の完成を、本年4月に目指しています。情報通信環境を整備することで、個人の自習とともに、グループでのディスカッションを行う場としても活用でき、協調性やコミュニケーション能力を養う空間としても有効に活用されると思われます。「広小路キャンパス」への人々の往来、活性化へと繋げてまいります。

●なぜ、いま「ラーニングコモンズの整備」なのか

現在、大学には新しい学習スタイルや共同学習を支えるための空間が不足しているという課題があります。学生たちは、従来の静かな読書空間だけではなく、グループでのディスカッションやアクティブラーニングを行うための環境を求めています。附属図書館としても、学生の学びの場としてのポテンシャルを最大限に活かされていないのが現実です。

さらに、ラーニングコモンズは学生だけでなく、研究者にとっても非常に有効な環境となります。学術研究は、個々の研究者の孤立した作業のみならず、他の研究者との協力や知識の共有が不可欠です。しかし、現在の研究環境では、研究者同士が気軽に意見交換したり、異分野の研究者と交流するための場が限られているという課題があります。

私たちは、学生同士の共同学習、研究者や地域医療従事者との交流を促進するため、「ラーニングcommons」という新しい学修空間の整備に着手します。この施設は、学生、教職員、研究者が共に学び、議論し、知識を深める場を提供します。また、デジタルツールや協働作業をサポートするインフラを整え、研究者の効率的なデータ分析や文献検索、論文執筆を支援します。ラーニングcommonsは、学生と研究者の両方にとって、学びと共同研究の進展に役立つ施設となります。

たくさんの学生さんからの期待が寄せられています

- 医学科学生も、ディスカッションなどして勉強できるスペースがあれば嬉しいです。
- 勉強意欲が上がる環境。学校にきたくなるような雰囲気を！
- 後輩たちが家や図書館以外でも勉強しやすい場所が増えるといいなと思います。
- 空いた時間を有効に利用したり自主学習したりしやすい環境になってほしい。
- アクセスも便利で素晴らしい環境だと思いますので、近隣の学校や住民の方等にも使って欲しい。
- もっと開かれたスポットになることを期待しております。
- 大学関係者(学生・教職員)のみならず、府民や観光客までもがつつい足を運んでしまいたくなるような空間になることを期待しています！

ラーニングcommonsの活用例(イメージ)

1 学びのための共有スペースとして

- 個人の自習だけでなく、グループでディスカッションの場として協調性やコミュニケーション能力を育む空間として利用。共通の目的を持った学生が集い、お互いの姿を見て学ぶことで、学生間や学生と地域等とのコミュニケーションが活性化
- ・授業の課題や、グループワーク、ゼミ学修、部活、サークル活動、国家試験の勉強会などで学生等が集まり、教え合いや学び合いを通じて、多様な価値観や問題を共有。
- ・レポート及び論文の作成やプレゼン空間としての利用
- ・IT環境や資料(図書)を活用した授業との連携

2 オープンでフレキシブルな空間として

- ラーニングcommonsを拠点に、イベントや講座を開催し、広範な交流・情報交換のハブとして活用
- ・地域向けのセミナーやワークショップの開催
- ・教職員の様々な打合せや協議の場として利用
- ・学生が昼食をとるスペースとして提供(食事スペースは限定)
- ・学会や研究会において、分科会などをラーニングcommonsで実施
- ・ケータリングを利用した交流会やネットワークイベントの開催



イメージ図

ご支援をお願いします！

命を紡ぐ架け橋に！未来の医療人材を育む、学びと地域交流の場

目標金額 **400**万円

2025年1月20日(月)から
3月31日(月)23時まで

返礼品に大学本部棟デザイン
ペーパーウエイトなど、
いろいろあります。



150年の歴史を新しい形で未来へつなぐ ラーニングcommonsの整備等へご支援を

本プロジェクトを、多くの方に知っていただき、新たな交流の架け橋となればと強く願っています。これからの未来の学びを支える環境を整えて、優れた医師、看護師等を輩出するとともに、皆様の医学医療に貢献できるよう、その財源として皆様の厚いご支援をいただければ幸いです。返礼品に大学本部棟デザインペーパーウエイトなど、いろいろご用意しております。

●参加はこちらから

<https://readyfor.jp/projects/hirokojipj2025>

京都府立医科大学附属図書館 レディーフォー



インターネット上での手続きが難しい場合は、京都府立医科大学附属図書館まで直接ご連絡ください。

EMAIL : library@koto.kpu-m.ac.jp TEL : 075-212-5400

**広小路キャンパス活性化
プロジェクト**
HIROKOJI CAMPUS ACTIVATION PROJECT

看護学科×看護部の連携による「看護の統合と実践I」

教員と附属病院スタッフとの協働による

看護実践能力向上を目指した科目

高度医療の進展、保健医療福祉サービスの多様化、国民の医療への意識の高まりを背景に看護職者に求められる役割や能力も変化し、看護基礎教育カリキュラムにおいても高い看護実践能力の修得が求められています。このような状況の中、臨床現場で求められる看護実践能力の乖離が指摘され、その乖離を埋める試みとして大学教員と臨床現場の連携が推奨されています。

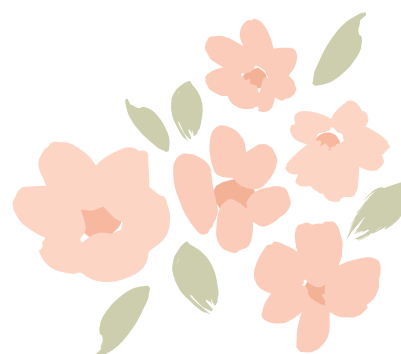
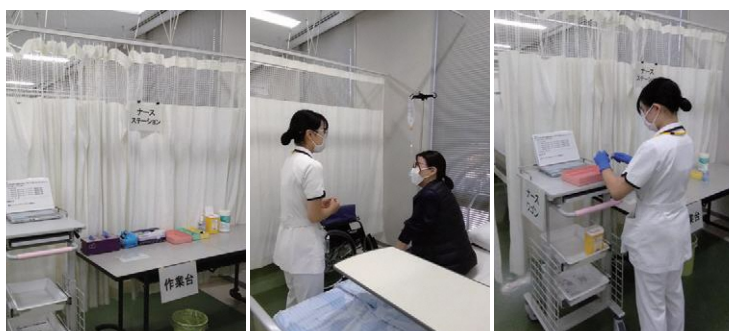
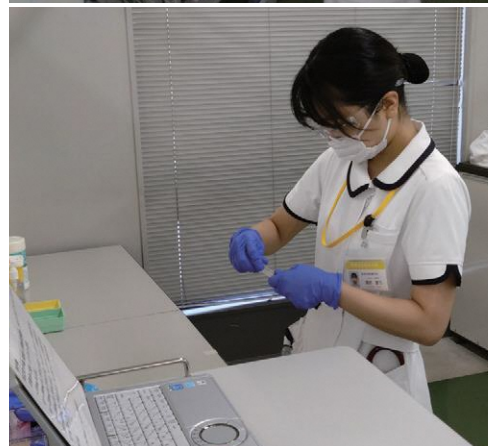
本学看護学科4年生で履修する『看護の統合と実践』は、ME機器の取り扱い等の演習および「観察できる」能力の評価ツールOSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）を取り入れ、より臨床現場に即した看護実践能力の修得を目的として展開しています。

この講義の位置づけは、基礎看護学から各領域における演習および臨地実習の知識・看護技術の統合評価であり、スキルスラボにおける講義と演習およびOSCEの評価に附属病院看護部の教育インストラクターや臨床工学士方々の協力を頂いており、まさに教員と附属病院スタッフとの協働、大学と臨床現場の連携による科目です。

看護実践能力は、知識や技術、判断力、倫理観などが統合された力であり、その評価が難しいとされています。しかしながら、演習やOSCEを看護部の教育インストラクターと教員、つまり、臨床と教育者の2つの視点から評価することにより、臨床現場で求められる看護実践能力の修得に繋がっています。

また、学生は可視化された自己の看護実践能力の修得度を認識することができ、今後の課題について具体的な目標設定が可能となります。この科目を通じて、本学の教育目標である「専門的に必要な技術・知識・態度はもとより、科学的思考に基づいた判断能力や問題解決能力を育て、主体的・創造的に看護が実践できる能力の育成」を目指しており、大学教員と附属病院スタッフ間の顔の見える関係が構築されています。さらに、学生の看護実践能力の修得度のデータを貴重な情報として活用し、各領域における講義や演習の改善を図っています。

看護倫理・管理学領域 教授 宮田 千春



2023年からの国際学術交流センターの取り組み

2023年、山田恵先生が国際学術交流センター センター長に就任されました。
新体制となって2年が経過した今、その取り組みと展望、
さらに学生たちに望むことなどについてお話をうかがいました。

コロナ禍が落ち着き、海外派遣学生が増加中

本学の理念である「世界トップレベルの医学を地域へ」その実現には、教育の土台の部分で国際的な視野を養う必要があります。

もともとは研究を中心に、教授や教室との間で個別に行っていた交流を一元化するために生まれたのが、国際学術交流センターです。オクラホマ大学(アメリカ)との提携を皮切りに海外の大学と交流協定の締結を進め、現在では協定締結した大学は27校、短期の臨床実習の受け入れ校も8校を数えます。センター長就任後の2年間では、ロスアンデス大学(チリ)、インドネシア大学と学術交流包括協定を、またハリム大学(韓国)との間では従来の学術交流包括協定に加えて新たに大学間学生交流を締結しました。

以前からあった研究の交流に加え、協定校の増加につれて学部生の交流も増えていきましたが、さらに充実させようとしていたタイミングでコロナ禍に。身動きできなかった期間を経て、2022年後半より再開。コロナ前は年間10名程度だった派遣学生が、再開後は2023年に14名、24年は17名に増えました。25年も18名の学生が派遣される予定です。就任時点では全体の約20%だった派遣学生ですが、この流れによって、卒業までに30～40%の学生が海外を経験するだろうと期待しています。

海外とのインターフェースとして さらなるアップデートを

こうした交流協定に基づく学生の受け入れ、あるいは送り出しがスムーズに行われるよう、さまざまな側面からサポートするのが国際学術交流センターの役割です。つまり、海外とのインターフェース機能。大学や学生の国際化を進める旗振り役ではない。教授の多くは留学や臨床など海外での経験を持っており、多くの先生方が学生たちにその経験を話しています。話を聞いて学生たちは、海外へと意識を高めていく。そうした新しい芽は、あちこちに存在しています。そして、そんな学生たちを海外へつなぐインターフェースとして、国際学術交流センターはありたいと思います。

センター長就任2年となり、これまでの取り組みや活動、業務などを見直しているところです。非効率、不合理な点は見直し、慣習で続けてきたものを整理するなど、スリム化も必要かもしれません。いずれは手続きのオートメーション化も視野に、インターフェースとしてのシステムの構築と合わせ、組織の改革も進めていきたいと考えています。

学生たちには、ぜひ医者になる前に外国を見て経験してほしいと思います。できれば全員。少なくとも70～80%の学生が海外の医療や文化、生活を経験する、そんな医大でありたいのです。協定校もさらに増やしていくつもりです。国際学術交流センターでは、イングリッシュカフェやIELTS対策講座の開催など、海外交流に活用できるさまざまな企画を開催しています。積極的に利用、参加してほしいですね。



国際学術交流センター センター長
放射線診断治療学 教授
山田 恵

4大学連携研究フォーラムが開催されました

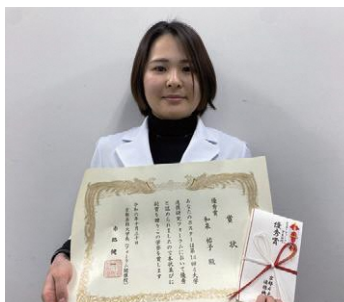
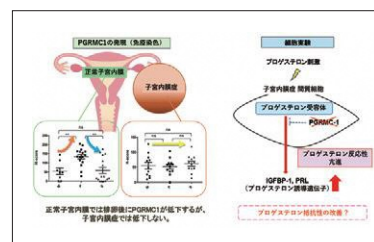
2024年10月30日に京都薬科大学において第14回4大学連携研究フォーラムが開催されました。

本学で優秀賞を受賞した研究を紹介します！

受賞研究紹介：子宮内膜症における PGRMC1 の発現とプロゲステロン反応性への関与

子宮内膜症は生殖年齢女性の約10%が罹患する疾患で、月経時に子宮内膜が骨盤内に逆流し、異常に定着することで発症し、生理痛や不妊症の原因となります。治療には副作用の少ないプロゲステン製剤が広く使用されていますが、3人に1人の割合で十分な効果が得られない場合があります。この治療抵抗性の要因として、私たちは膜型プロゲステロン受容体の「PGRMC1」に着目しました。PGRMC1はプロゲステロンの作用を調整するタンパク質で、正常な子宮内膜では排卵後に発現が低下し、プロゲステロンの反応性を高めます。しかし、研究により子宮内膜症では排卵後もPGRMC1の発現が持続し、プロゲステロンの効果を阻害している可能性が示されました。さらに子宮内膜症の細胞でPGRMC1を抑制すると、プロゲステ

ロンの反応性が大幅に改善することを確認しました。また、PGRMC1はプロゲステロンが核内受容体に結合した後の反応を抑制することで、プロゲステロン作用を調整していることも分かりました。これらの結果から、子宮内膜症細胞におけるPGRMC1の異常発現がプロゲステロン抵抗性の一因である可能性が示唆され、PGRMC1を標的とした治療法が、治療抵抗性を示す患者への新しいアプローチとなることが期待されます。



優秀賞受賞 和泉 祐子さん

このたびは4大学連携研究フォーラムの優秀賞に選出いただき、誠にありがとうございます。本研究は子宮内膜症の治療抵抗性のメカニズム解明を目的としたものです。このような発表の機会をいただき、また多くの方々に評価いただけたことを光栄に思います。他分野の研究者の皆さまと交流し、貴重な視点を得られたことも非常に有意義でした。支えてくださった皆さまに感謝申し上げ、今後も研究を発展させてまいります。

EMT M Dr.浅野登&暉子基金贈呈式を行いました

「ENT M Dr.浅野登&暉子基金医学基礎研究助成事業」は、京都府立医科大学の若手研究者による医学基礎研究に対する助成事業として2019年度から開始されました。

基金の名称にある「浅野登」様は京都府立医科大学の耳鼻咽喉科の助手を経て開業医として活躍された方です。登様の遺志を受け、配偶者である暉子様が公益財団法人公益推進協会において設立され、「若手研究者への支援」「基礎医学研究の発展」を願い創設された基金です。

今年は18件の応募があり、公益財団法人公益推進協会において厳正に審査された結果、計7名が受賞しました。

2024年度医学基礎研究助成事業助成金受賞者

日野 智博(循環器内科学 病院助教)
「次世代ゲノム編集治療に向けた高精度のゲノム編集ツールの開発」
岡田 悟(呼吸器外科学 学内講師)
「胸腺上皮性腫瘍における癌関連線維芽細胞の役割の解明と新規治療法の開拓」

奨励金受賞者

田中 佑輝子(女性生涯医科学 学内講師)
片山 勇輝(呼吸器内科学 助教)
北澤 耕司(視覚機能再生外科学 助教)
後藤 仁志(細胞生物学 助教)
加藤 千翔(内分泌・乳腺外科学 助教)

助成事業の概要、贈呈式の様子は京都府立医科大学HPをご覧ください。



<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/research/zouteishiki2024.html>

永守記念最先端がん治療研究センター

公開講座「陽子線治療ってなに？」

日本人の2人に1人が「がん」になると言われている昨今、その治療法は様々です。がん治療の一つである「放射線(陽子線)治療」について、実際に「がん」と診断されたときに自分に適する治療法の一つとして知っていただくために公開講座を開催しています。

2024年10月19日(土)にハイブリッド形式で開催し、約140名の方にご参加いただきました。陽子線治療やその適応疾患、治療効果などについて、放射線科の医師だけでなく、他の診療科(泌尿器科・消化器内科等)の医師がリレー形式で講演し、会場から多くの質問もいただきました。次回の公開講座は日程が決まり次第、ホームページ等でご案内いたします。



生涯教育委員会

公開講座「AI × 医療の可能性」

本学では広く府民に開かれた大学として、学術研究によって得られた成果の一部を毎年公開講座の形で公表することで、生涯学習の場の提供や、府民の健康増進及び福祉向上に貢献しています。

2024年12月7日(土)に図書館ホールで開催し、高校生も含め約130名の方にご参加いただきました。「AI×医療の可能性」をメインテーマとして、AI(人工知能)が進歩し各分野で導入が進んでいる中、医療分野でもAIや先端技術を活用した研究や臨床が行われている現状及び今後の可能性等について各先生方にご講演いただきました。

具体的には、泌尿器外科学から「尿にでてくるがん細胞の診断支援AIの開発」、精神機能病態学から「対話を分析して理解度を計測する」、内分泌・代謝内科学から「AIがもたらすおいしくて健康な未来」、循環器内科学から「健康寿命、AI診断」、そして老年・在宅看護学から「AIで進化する看護アセスメントと介護福祉ツール」の合計5つの講演を実施し、参加者からは

「AIが進化していくことで医療従事者だけでなく患者さんにも役立つことは素晴らしい」等の声があり、ご好評をいただきました。

本公開講座については、準備や調整が整い次第、順次動画公開を予定していますので、ぜひご視聴ください。



オープンホスピタル2024を開催しました

2024年11月2日(土)、トリアス祭(大学の学園祭)と同日に、「オープンホスピタル2024」を開催しました。本イベントは、コロナ禍以降で初めて病院内で実施したもので、あいにくの悪天候にもかかわらず、250名を超える多くの方々にご来場いただき、地域の方々に、附属病院の魅力を身近に知ってもらう機会となりました。来場者の皆さんには、赤ちゃんのお世話体験、医療機器体験、リハビリテーション体験、顕微鏡体験など、病院ならではのプログラムをお楽しみいただき、「普段できない体験を実際に目で見て体験することができて良かった」といっ

た感想をいただきました。

今後も附属病院では「世界トップレベルの医療を地域へ」の理念のもと、地域の皆さんに寄り添いながら医療の質を高め、より良いサービスを提供してまいります。



リハビリテーション体験

医療機器体験

顕微鏡体験

教授紹介



大学院医学研究科 麻酔科学

天谷 文昌 Fumimasa Amaya

略歴

京都府立医科大学卒業後、麻酔科医として勤務、ハーバード大学・マサチューセッツ総合病院への留学等を経験。1999年から本学に勤務し、麻酔科学教室准教授、疼痛・緩和医療学准教授、同教授を経て麻酔科学教授に就任。

座右の銘

変化を恐れない

平素より麻酔科学教室をご支援いただきましてありがとうございます。このたび教授を拝命しました天谷です。

全身麻酔は19世紀に発明されました。当時の手術は麻酔なしで行われ、全身麻酔は患者の苦痛を取り除く福音として熱狂的に支持されましたが、麻酔死が多発し手術に用いることへの反発も少なくなかったそうです。草創期から安全性を追求したことが麻酔の普及につながりました。

患者を苦痛から解放し、その生命を守ることは歴史に裏付けられた麻酔科医の行動原理です。麻酔科学は手術室で高度化し、集中治療や疼痛治療、緩和医療へと応用され活動の幅を広げています。さまざまな局面で良質な診療を提供できる麻酔科医の育成を目標として教室運営に尽力いたします。

これまで私は手術室、集中治療、疼痛緩和とさまざまな領域を経験する機会がありました。環境を変えることでより多くの学びを得た経験は私の財産です。今後も変化する事を恐れずにいたいと思います。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



大学院医学研究科 分子生化学

中田 慎一郎 Shinichiro Nakada

略歴

東京医科歯科大学医学部医学科卒業後、小児科医として勤務。東京医科歯科大学にて博士号取得。Samuel Lunenfeld Research Institute 博士研究員、慶應義塾大学医学部特任講師、大阪大学大学院医学系研究科独立准教授、大阪大学高等共創研究院教授を経て現職。日本医師会奨励賞、日本放射線影響学会賞、日本癌学会研究奨励賞などを受賞。

座右の銘

Do My Best

学生の頃、10万円弱を握りしめ、毎年ヨーロッパを訪れていた。あちらこちらのオペラハウスやコンサートホールを巡り、クライバー、チェリビダッケ、ジュリーニといった巨匠の演奏に日々感激していたことを、昨日のこのように覚えている。だが、ここ数十年ほとんど演奏会に行かなくなった。80年間に蓄積された音源を超える感動になかなか出会えなかったからだ。現在の演奏家は、過去80年の天才たちと比較されてしまうので大変である。

さて、科学ではどうだろうか。我々は80年前どころか10年前の偉人よりも優れた技術、機材、知識が得られ、PCRやDNAシーケンス、ゲノム編集も容易に行える。それでも偉人を越える成果を出すのは難しい。天才でない自分にできることは、与えられた環境でオリジナリティを発揮し、ベストを尽くすことだと思っている。教育や管理・運営では抑制が必要な場面もあるが、自分なりのベターを目指していきたい。

今、高い評価を受ける必要はない。評価は時代とともに変遷する。手段と目的を違えず、目標に向け愚直に進捗する。その中から必ずや新たな偉人が誕生するだろう。

基礎医学がわかる医師の育成、そして臨床につながる基礎医学の発展に尽力してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



大学院医学研究科 消化器外科学

塩崎 敦 Atsushi Shiozaki

略歴

京都府立医科大学卒業後、消化器外科医としての研鑽を積み、トロント大学への留学等を経験。2009年より本学消化器外科学の教員を務めた。2024年11月より本学消化器外科学教授に就任。

座右の銘

継続は力なり

我々の教室では、長い歴史の中で培った高度な医療を安全に提供することを目指すとともに、新しい手術手技の開発や基礎・臨床研究も活発に推進して参りました。食道癌の臨床では、低侵襲手術として縦隔鏡下手術をいち早く導入し、非開胸による新しいリンパ節郭清法を世界に先駆けて開発しました。これまで国内外から多数の手術見学を受け入れ、海外施設における手術指導も行ってきました。また研究では、消化器癌におけるイオン輸送体の機能解析と新規治療への応用、血漿中遊離核酸を用いた新規癌診断マーカーの探索等、様々なテーマに取り組んできました。

Originalityの高い研究を発信していく上で、長く継続的に遂行することの重要性を痛感して参りました。そして、継続を支える最も重要な要因は、人の和であると考えています。手術手技の開発では、チームとして結束し目標に向かう努力が不可欠です。また、多岐にわたる研究テーマを支えるには、様々な研究手法を先輩から後輩へ確実に継承していくことが重要です。これからも、周囲から信頼される立派な社会人たる外科医を育成することで、歴史ある本学の発展に少しでも貢献できるよう全力で取り組んで参ります。

■ 京都モダン建築祭2024

本部棟を公開しました

京都に現存するモダン建築を一斉公開する「京都モダン建築祭2024」が11月に10日間に渡り開催されました。この催しは京都市内に残る近代や現代の建築物の歴史を知り、未来に残すことへの理解を深めてもらおうと京都市などで構成される実行委員会が企画されました。

本学は昨年に引き続き参画し、本部棟1階 歴史館、3階 西側階段教室を1日限定で公開したところ、650人を超える多くの方にご来場いただきました。ご来場された皆さんは階段教室の座席に座って教室の雰囲気を味わったり時間をかけて歴史館の年表や機材、ステンドグラス、アーチ状の窓の隅々まで見学され、本学をより身近に感じてもらう機会となりました。

本部棟のおはなし

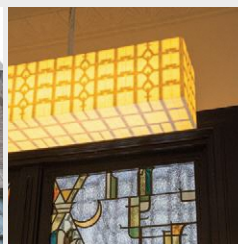
「本部棟(旧附属図書館)」は、十河(そごう)安雄の設計で、95年前の昭和4年に完成しました。外観、階段教室の机・椅子は平成20年に文化財指定されています。建物の外観は、ネオ・ゴシック様式を基調とし、反復される尖頭アーチや前面に張り出す中央部分の外壁に貼られているスクラッチタイル(縦曳き)が特徴です。また、1階入口扉やその上部に設けられたステンドグラス、階段天井の照明は20世紀初頭にヨーロッパ・アメリカで花開いた直線的で幾何学なデザインを主体とするアール・デコの意匠となっています。ゴシック意匠にモダンデザインの要素を採り入れ、破綻なくまとめられた「ネオ・ゴシック建築」といわれています。



本部棟



スクラッチタイル



ステンドグラス



階段上の照明

ご寄附のお願い

一般寄附

本学では、広く本学の教育研究、診療環境の整備等を推進するため、また特定の事業をご指定いただくなど、法人(企業等)や個人の方から寄附金を受け入れております。

○お申込後、振込用紙によるお振込

ふるさと納税制度を活用した寄附

『世界トップレベルの医学を地域へ』を目指し、ふるさと納税制度を用いた寄附金を募集しています。寄附金は、教育・研究環境の整備や国際交流事業、診療環境の充実等に活用させていただきます。

○クレジットカード、ゆうちょ銀行、郵便局からの払い込み及び銀行等からのお振込

創立150周年記念事業への寄附

2022年、本学は150周年を迎えました。150年の節目を超えて、次世代トレーニングセンターの整備や映画製作など記念事業について、引き続き大学を挙げて取り組んでおります。

○お申込後、指定口座にお振込

【お問い合わせ】

〒602-8566

京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465番地

京都府立医科大学 総務課総務係

TEL : 075-251-5210

<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/about/kihukin.html>

多くの皆様のご寄附をお待ちしております。



京都府立医科大学附属病院と京都大学医学部附属病院が共同で誘致！

ドナルド・マクドナルド・ハウス 京都

(略称：京都ハウス)



お家から遠く離れた病院に入院・通院している子どもとそのご家族のための「第二のわが家」

「ドナルド・マクドナルド・ハウス 京都」の整備のため、皆様からのあたたかなご寄附をお待ちしております。

ご寄附の方法(ふるさと納税制度適用可)

・クレジットカード、ゆうちょ銀行、郵便局からの払い込み及び銀行等からの振り込み
(二次元コードを読み込んでください。)>>>



場 所：京都市上京区御車道通清和院口上る東側梶井町447の一部
建 物 規 模：延べ床面積約1,200㎡(ベッドルーム18室、共有スペース)
利用対象者：京都府立医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院等に入院・通院する患児とその家族(1人1,000円/日)
募金目標額：4億円(総費用8億円)



ドナルド・マクドナルド・ハウス 京都開設募金委員会 <https://kyoto-house.jp/>

〒602-8566京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465(京都府立医科大学内) 公益財団法人京都府医学振興会

(TEL: 075-212-5466 E-mail: kyoto-h@koto.kpu-m.ac.jp)

令和7年4月1日より 附属病院駐車料金を改定します

平素より当院の運営にご理解、ご協力いただき、深く感謝申し上げます。
令和7年4月1日(火)より、駐車料金を下記のとおり改定いたします。

診療等を受けられた方	入院・退院当日に付き添う方 病院からの依頼・要請により来院された方	左記に該当しない方
1台1回につき 600円 福祉割引あり※ (提携駐車場：最大駐車料金600円)	1台1回につき 無料 (当日限り) (提携駐車場：無料)	1台1回につき 1時間30分以内 600円 1時間30分超 200円 /30分加算 (提携駐車場：各駐車場の料金体系に応じた金額)

※福祉割引：外来患者さんのうち、身体障がい者手帳などをお持ちの方は駐車料金を無料化いたします。対象となる方および必要書類はホームページ等をご覧ください。
附属病院においては、診療などで来られる患者さまに無料で駐車場をご利用いただいておりますが、令和7年4月から、その費用の一部をご利用される皆様にご負担いただくこととなりました。
継続的な駐車場運営のため、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

URL : <https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/important/20250111.html>

